

**株式会社 堀場製作所 主催
個人投資家向け会社説明会
於 野村證券 福岡支店**

“はかる”技術で社会に貢献

**株式会社 堀場製作所
(証券コード:6856)**

2018年3月29日

**経営管理部 IR担当副部長
上杉 英太**

説明内容

- 会社概要
- ビジネス紹介
- HORIBAのあゆみ
- 中長期経営計画「MLMAP2020」
- トピックス
- 株主還元

＜免責事項＞ 本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。

また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

説明内容

- **会社概要**
- ビジネス紹介
- HORIBAのあゆみ
- 中長期経営計画「MLMAP2020」
- トピックス
- 株主還元

概要

(2017年12月31日現在)

■ 本社	京都市南区吉祥院宮の東町2
■ 事業内容	分析・計測機器の開発・製造・販売
■ 創立	1953年1月26日
■ 資本金	120億円
■ グループ従業員数	7,399名
■ 代表者	堀場 厚
■ 決算日	12月31日



代表取締役会長兼グループCEO
堀場 厚

2017年通期業績実績 / 2018年通期業績予想

(単位:億円)

	2016年	2017年	2018年	
	実績	実績	予想	vs前年
★ 過去最高				
売上高	1,700	1,953	★ 2,100	+146
営業利益	184	268	★ 290	+21
営業利益率	10.9%	13.7%	13.8%	+0.1p
経常利益	182	266	★ 284	+17
親会社株主に帰属する 当期純利益	129	162	★ 190	+27
一株利益(円)	307	386	450	+64
ROE	10.0%	11.5%	12.1%	+0.6%

株価推移（過去5年間）



上場来高値： 8,200円（2018年2月28日）
時価総額： 3,450億円

指標（2017年通期業績実績）
1株当たり純資産： 3,565円
1株当たり当期純利益： 386円

説明内容

- 会社概要
- **ビジネス紹介**
- HORIBAのあゆみ
- 中長期経営計画「MLMAP2020」
- トピックス
- 株主還元

“はかる”装置 -科学技術の発展や身近な水の管理に貢献-

創業製品



昭和20年代のpHメーター



現在のpHメーター

水をはかる

水のpH、イオン、溶存酸素などの特性や成分を測定。
研究所はもちろんのこと、水質を管理する植物工場や水族館といった幅広い分野で使用される。



卓上型
最新pHメーター

“はかる”装置 -効率的なエンジン開発に貢献-

自動車の排ガスをはかる

自動車メーカーを中心とした
エンジン開発に携わる企業の
基礎研究開発や各国検査機関で
の認証試験などに貢献。

売上規模
最大



自動車排ガス測定装置
～MEXA-ONE～

“はかる”装置 -医療現場での適切な診断に貢献-

人間の血液をはかる

主に病院や診療所などの血液検査において、血液中の赤血球・白血球・血小板の個数や血糖値などを測定。

日本では
九州で
強い！



自動血球計数CRP測定装置

“はかる/制御する”装置 -高性能な半導体製造に貢献-

Made
in
九州！



マスフローコントローラー
(堀場エステック社製品)

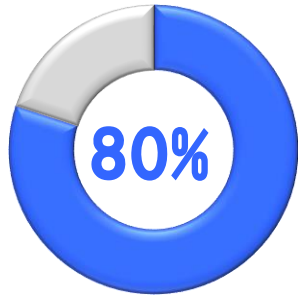
半導体の製造を制御

半導体製造プロセスにおいて、
ガス・液体供給ラインを精密に
流量制御を行う機器です。

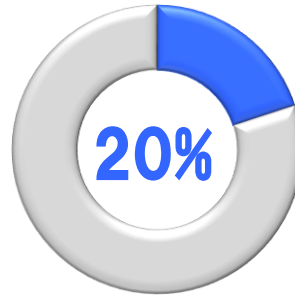
高品質な半導体やLED製造の
キーコンポーネントです。

世界市場シェア

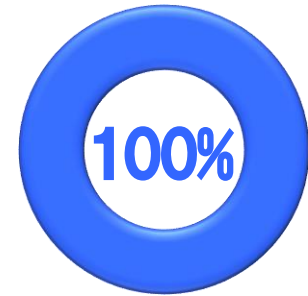
エンジン排ガス計測システム



煙道排ガス分析装置

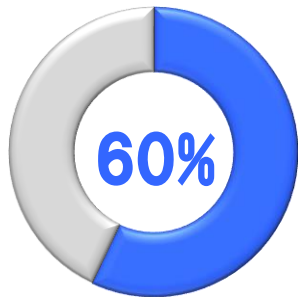


血球計数CRP計測装置

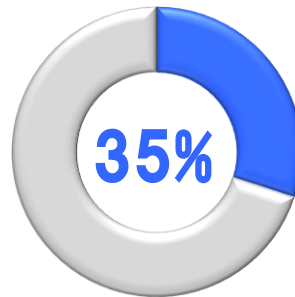


※2015年末調査時点 日本国内シェア

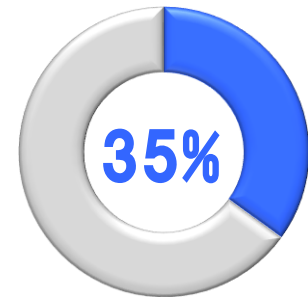
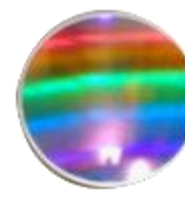
マスフローコントローラー



ラマン分光測定装置

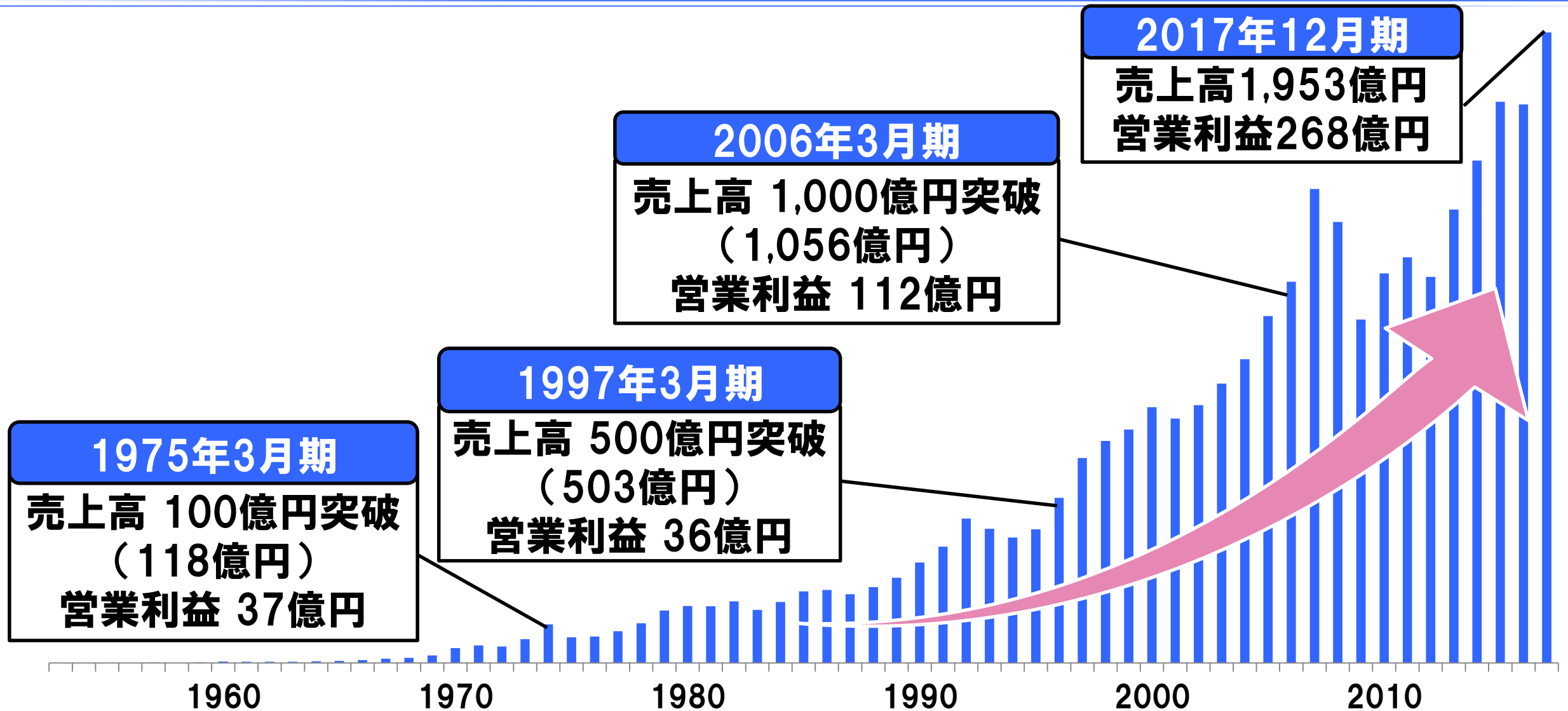


グレーティング



※各製品のマーケットシェアは当社推定値

過去の業績推移



5つのセグメントからなるバランス経営

自動車計測システム機器



環境・プロセスシステム機器



医用システム機器



半導体システム機器

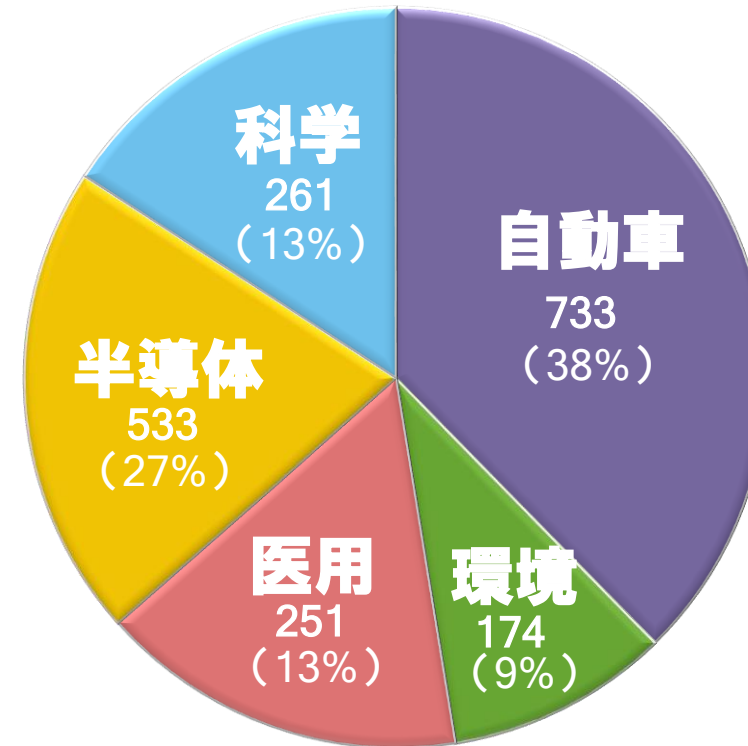


科学システム機器



売上高 1,953 億円

() = 売上高構成比率



事業セグメント別売上高(億円)

2017年12月期

2017年通期業績実績 / 2018年通期業績予想（セグメント別）

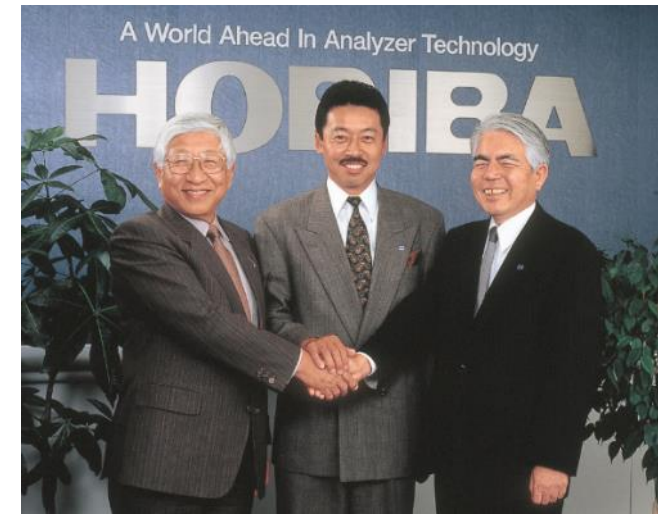
（単位：億円）

	売上高				営業利益			
	2016年 実績	2017年 実績	2018年 予想	vs 前年	2016年 実績	2017年 実績	2018年 予想	vs 前年
★：過去最高								
自動車	622	733	★ 790	+56	35	76	★ 80	+3
環境	167	174	★ 190	+15	15	10	14	+3
医用	265	251	260	+8	28	19	20	+0
半導体	388	533	★ 580	+46	96	156	★ 170	+13
科学	257	261	★ 280	+18	9	4	6	+1
合計	1,700	1,953	★ 2,100	+146	184	268	★ 290	+21

説明内容

- 会社概要
- ビジネス紹介
- **HORIBAのあゆみ**
- 中長期経営計画「MLMAP2020」
- トピックス
- 株主還元

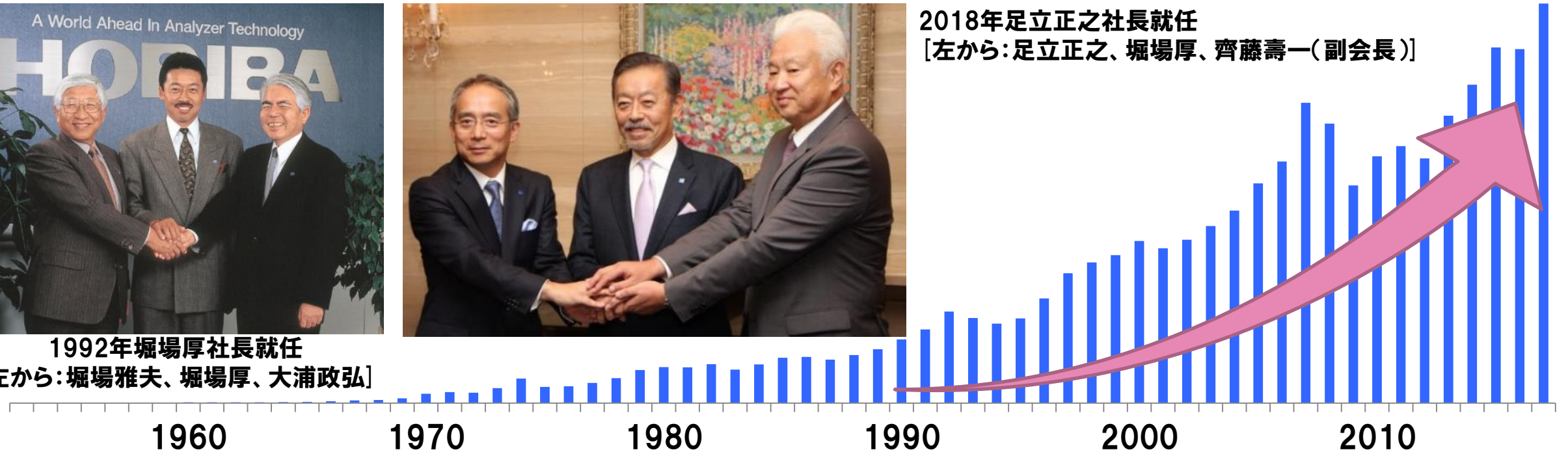
HORIBAがわかる3つのエピソード



1992年堀場厚社長就任
[左から:堀場雅夫、堀場厚、大浦政弘]



2018年足立正之社長就任
[左から:足立正之、堀場厚、齊藤壽一(副会長)]



1

初代社長
1953～1978年
堀場 雅夫



学生ベンチャーとして起業

2

2代目社長
1978～1992年
大浦 政弘



おもしろおかしく
ヒット製品開発

3

3代目社長
1992～2017年
堀場 厚



M&Aで事業拡大

1. 学生ベンチャーとして起業



学生ベンチャーの先駆けとして京都で起業。
国産初のガラス電極pHメーターを完成させ
「pHメーターのHORIBA」
として舵を切る。



前身である堀場無線研究所前にて

当時のpHメーター

「おもしろおかしく」“Joy and Fun”

人生のもっとも活動的な時期を費やす仕事にプライドとチャレンジマインドを持ち、「おもしろおかしく」エキサイティングに取り組むことによって人生の満足度を高め、よりおもしろおかしく過ごせる。



2.“おもしろおかしく” ヒット製品開発

– 1960年以降、国内外で大気汚染への関心が高まる–
社長に反対される中、医学用呼気ガス分析計を転用した
エンジン排ガス測定装置を開発。米国の環境保護局に採用され、
HORIBA製品が※世界標準に。



エンジン排ガス測定装置
MEXA-ONE

※
世界シェア8割



※当社推定

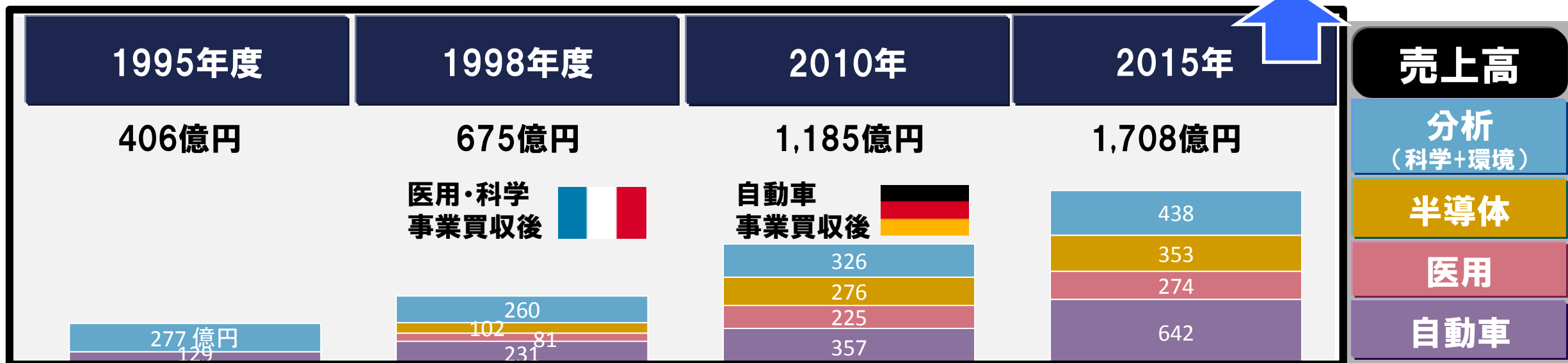
3.M&Aで事業拡大

初代、2代目社長の時代に
築いた技術力を活かし、
グローバル展開を加速！



エンジニアリング事業買収

代表取締役社長兼会長(当時)堀場厚と
ホリバMIRA社CEOジョージ・ギレスピー



主な研究開発と生産拠点

● 生産拠点
● 研究開発拠点



Nuneaton, UK
(自動車)



Oberursel, Darmstadt, Germany
(自動車、環境プロセス、半導体)



Olomouc, Czech
(自動車)



京都、日本
(自動車、環境プロセス、
医用、半導体、科学)



Ann Arbor MI, USA(自動車)



Edison NJ, USA(科学)



Longjumeau,
France
(半導体、科学)



Montpellier, France (医用)



New Delhi, India
(自動車、環境プロセス、
医用、科学)



Shanghai, China
(自動車、環境プロセス、
医用、半導体、科学)



阿蘇、日本
(環境プロセス、医用、
半導体、科学)



Irvine CA, USA
(環境プロセス、
医用、科学)



Houston TX, USA
(環境プロセス)



Sunnyvale CA,
USA(半導体)

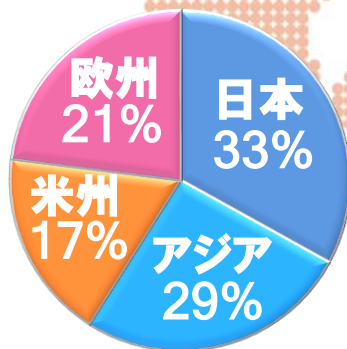


Sao Paulo, Brazil
(環境プロセス、
医用、科学)

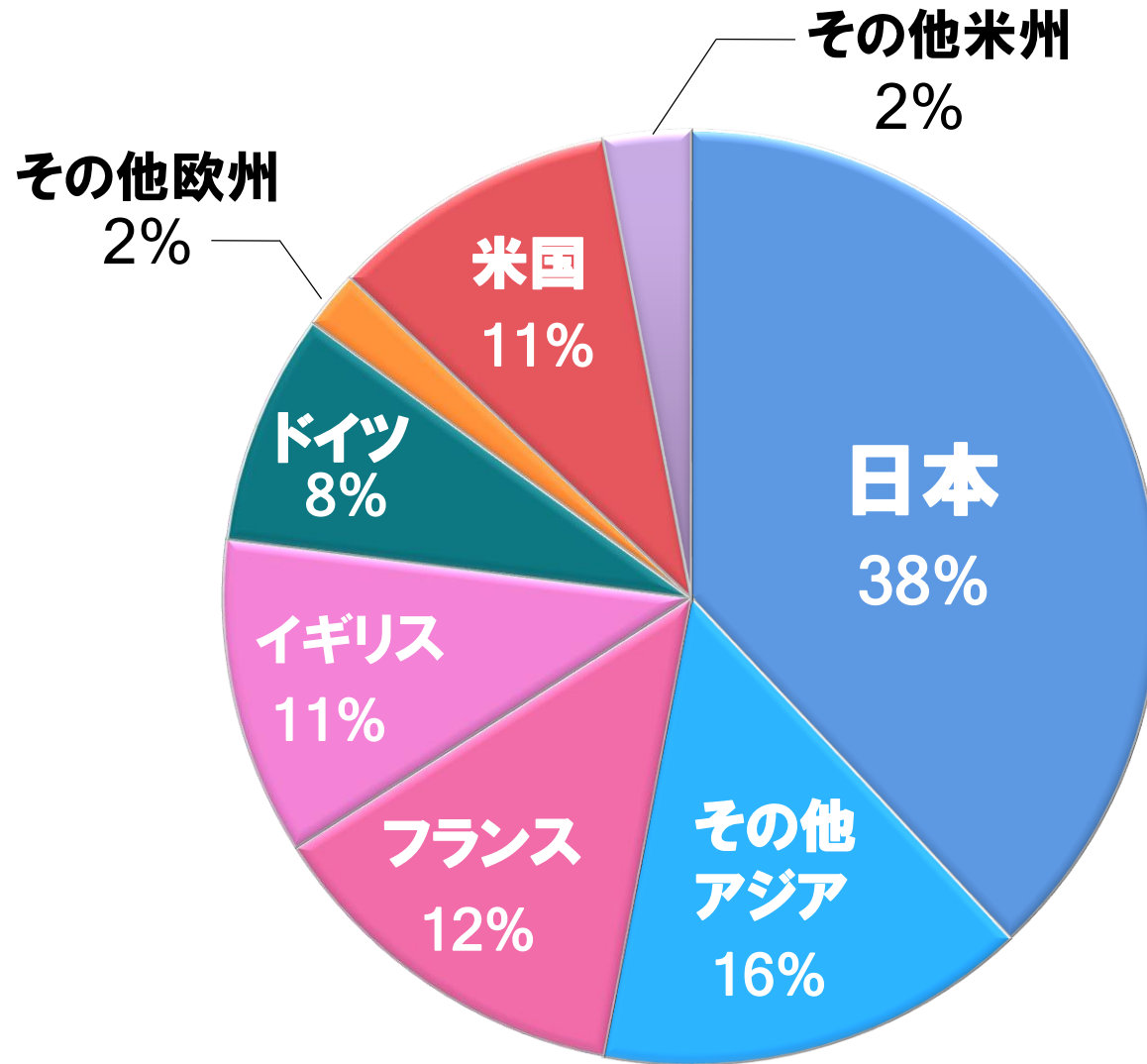


滋賀、日本
(自動車、環境プロセス、医用、半導体、科学)

2017年地域別
売上高比率



地域別従業員比



従業員数
2017年12月31日現在

7,399名

アジア: 4,041名

54%

欧州: 2,414名

33%

米州: 944名

13%

説明内容

- 会社概要
- ビジネス紹介
- HORIBAのあゆみ
- **中長期経営計画「MLMAP2020」**
- トピックス
- 株主還元

数値目標

売上高	2,500億円
営業利益	300億円（営業利益率：12%）
純利益	200億円
EPS（一株利益）	475円
ROE	10%以上
総還元性向	30%目途

為替前提：USD＝115円、ユーロ＝125円

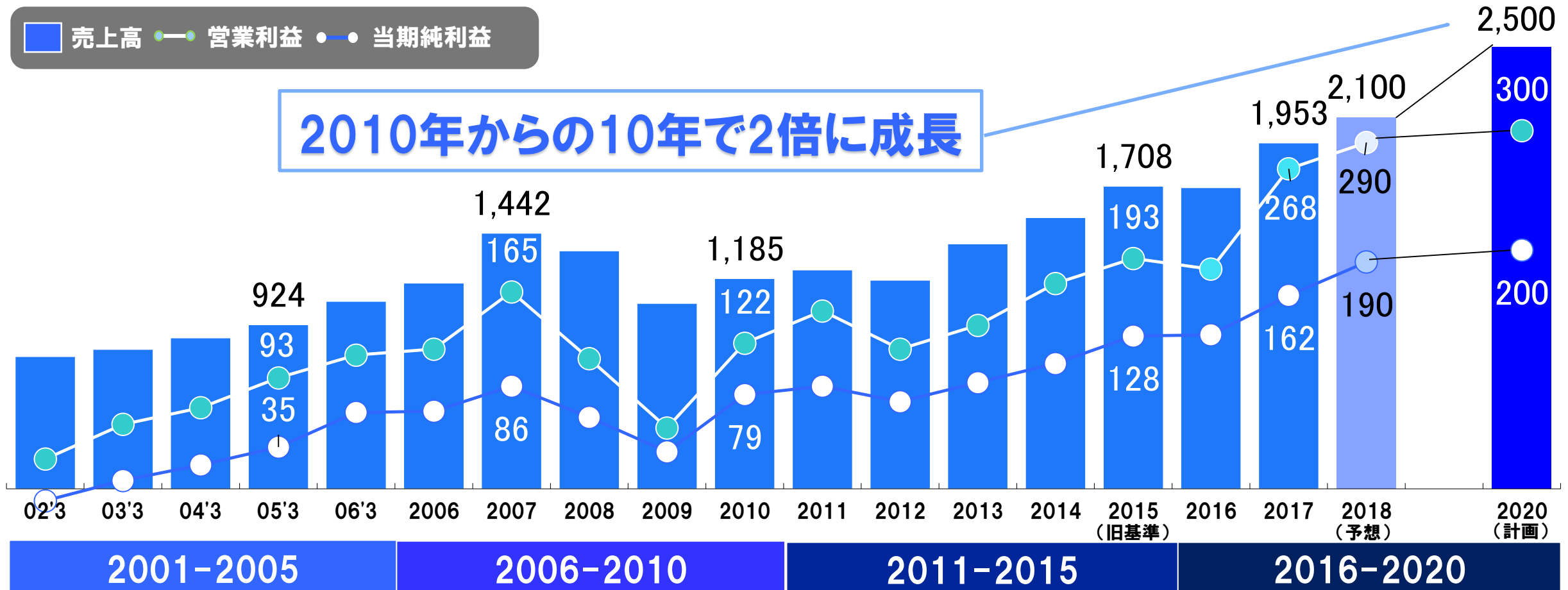
20年間の業績推移・目標

(単位:億円)

売上高・営業利益・純利益の全てにおいて、継続的な成長

■ 売上高 ● 営業利益 ● 当期純利益

2010年からの10年で2倍に成長



※2016年度に収益認識基準を変更しましたが、2015年以前の数値は遡及適用を行っておりません。

中長期経営計画の方針

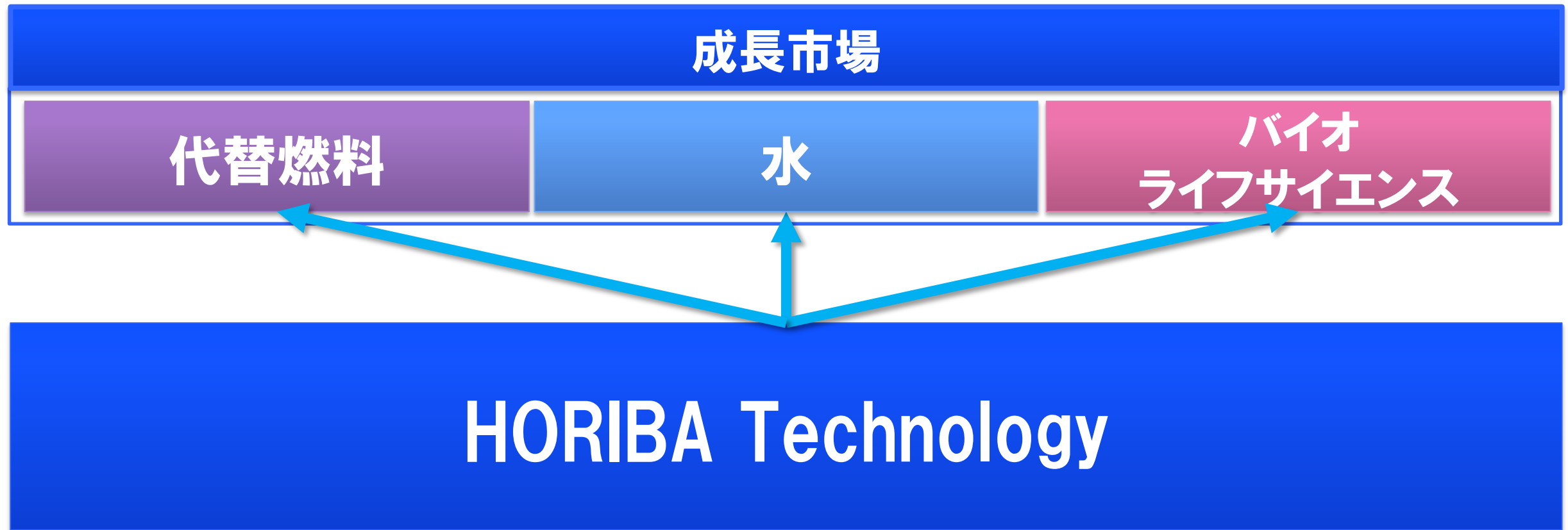
**HORIBAの技術を新分野・新市場に展開
次なるステージへ“ONE STEP AHEAD”**

- ① **HORIBA Technologyを新分野・新市場に展開
分析・計測の真のパートナーへ**
- ② **バランス経営 / マトリックス組織 /
HORIBAステンドグラス・プロジェクト
をベースに事業成長**
- ③ **資産効率の向上と企業価値の最大化**



重点施策①分析・計測の真のパートナーへ

各セグメントの技術と顧客ネットワークの相互活用を強化し
HORIBAの分析技術を成長分野に拡大します。



水

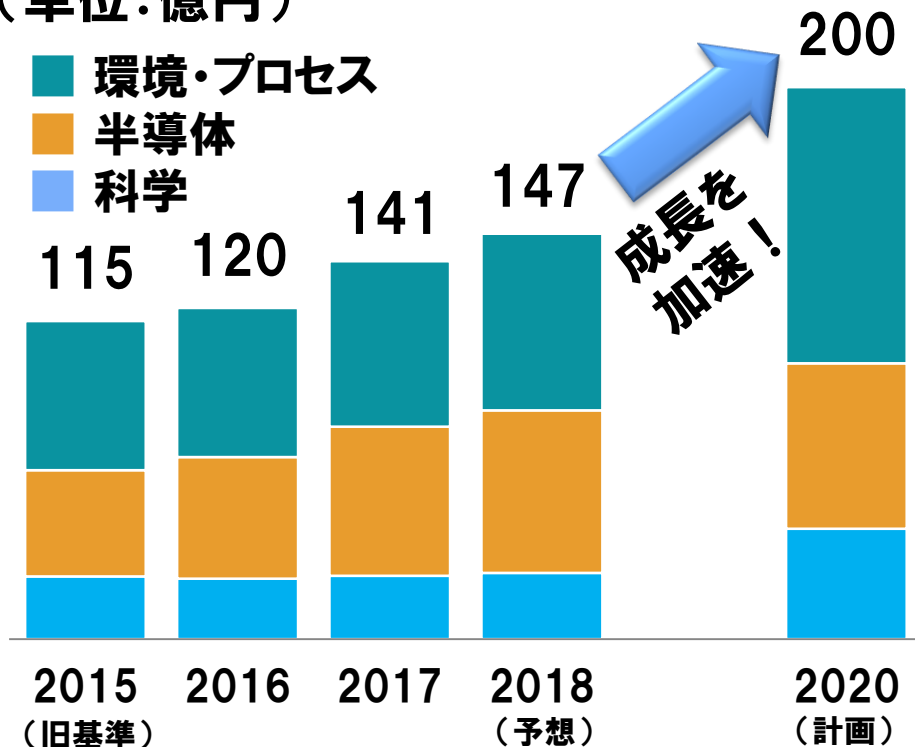
水質計測分野での成長加速

株式会社堀場アドバンスドテクノ(京都)に「水」計測リソース集約

水質計測分野での売上高を2倍に100億円→200億円

(単位:億円)

■ 環境・プロセス
■ 半導体
■ 科学



- 超純水から排水を幅広くカバー
- 市場要求への緻密な対応
- IoTを使った水計測ネットワーク創出

水質計測装置



薬液濃度モニター



pHメーター



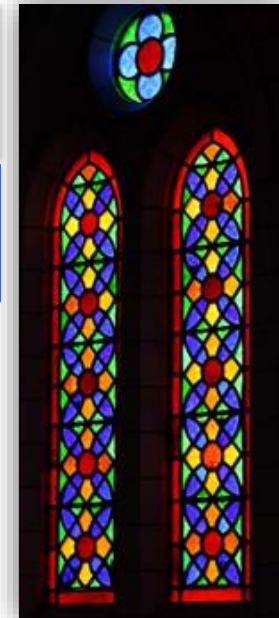
重点施策②HORIBAステントグラス・プロジェクト



HORIBA流ダイバーシティの実現

～Super Dream Team～

- ・ベンチャースピリットを継承
- ・チャレンジ精神
- ・「おもしろおかしく」を体現



バランス経営

- ・経営資源の機動的活用
- ・投資事業の集中と選択

マトリックス組織

- ・事業部門と地域での徹底議論
- ・スピーディな戦略実行
- ・シェアドサービス※の推進

※シェアドサービス: 特定の業務を複数部門や複数会社で共有化、集中化することにより、会社全体ないしは、グループ企業全体の生産性を高め、コスト削減につなげるもの。

現場に寄り添った働き方改革(ステンドグラス・プロジェクトの取り組み)

STEP1
2014年

「女性活躍推進」からスタート

STEP2
2015年～

「働き方改革」ワークショップ開始
テーマ「一人ひとりの行動変化」

STEP3
2017年～

経営・人事・現場を繋ぐ
現場・組織毎の特徴を生かす

2018年の重点施策

- 会議効率化: 運営方法策定、全社展開
- 柔軟な働き方実現に向けた制度導入検討

2017年の活動

カエル会議(34回実施)

「早くカエル」
「仕事のやり方をカエル」
「自分をカエル」

柔軟性をもった働き方の実現

➤ 仕事と介護両立に向けた支援

カエル会議

仕事と介護の両立セミナー



重点施策③資産効率の向上

資産効率を測る独自の経営指標を予算化

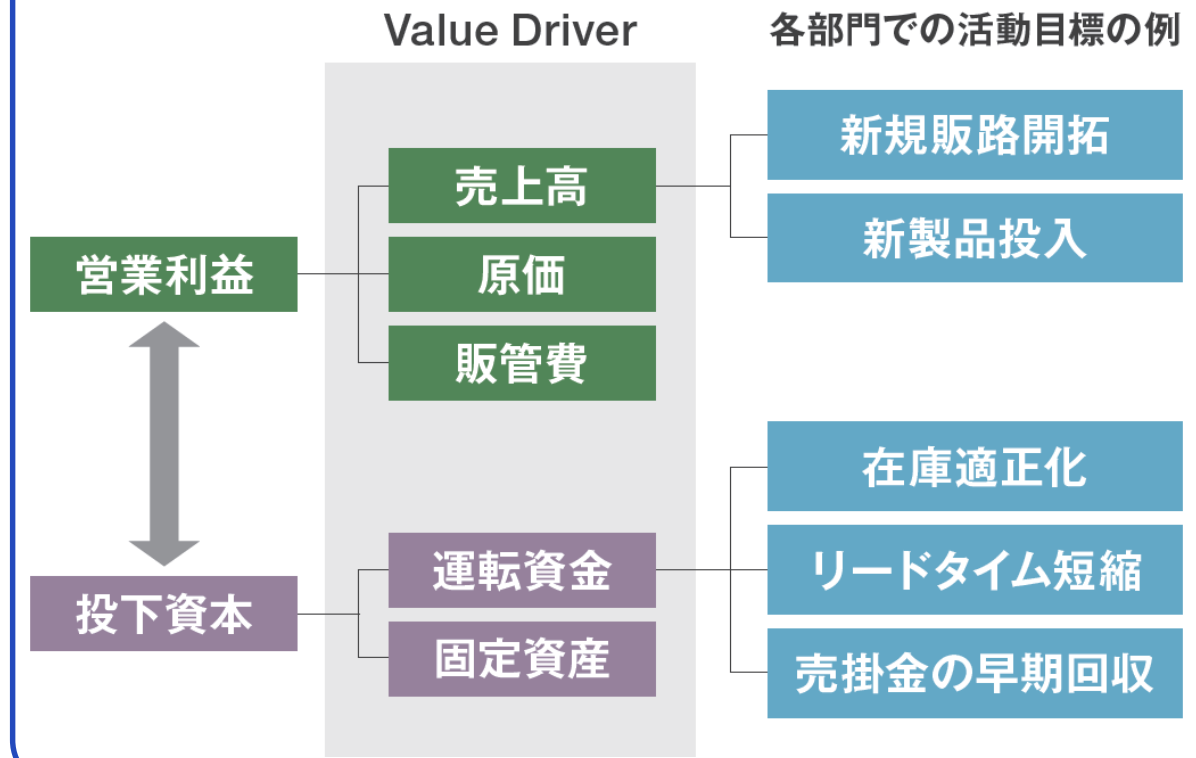
HORIBA Premium Value

$$= \text{営業利益} - \text{資本コスト}$$

<HORIBA指標の特長>

- シンプルな計算方法
- 営業利益を使用
- 絶対額で評価

各部門での活動とのつながり



説明内容

- 会社概要
- ビジネス紹介
- HORIBAのあゆみ
- 中長期経営計画「MLMAP2020」
- **トピックス**
- 株主還元

マイラ 英国MIRA社(現ホリバMIRA社)を買収(2015年7月14日)

広大なテストコースを使った各種実験が可能

マイラ・テクノロジーパーク
顧客30社が入居

テストコース

1 km

試験棟35棟

設立 : 1946年
売上高 : 81億円 (2017年12月期)
(56.4百万英ポンド)
従業員数 : 591名 (2017年12月31日現在)

ホリバMIRA社の概要

設立
1946

600+
スタッフ

38
主要試験設部

全長
100 km
テストコース

この6年で
60% の成長

モビリティ開発の
中核拠点



テストエンジニアリング



車両エンジニアリング



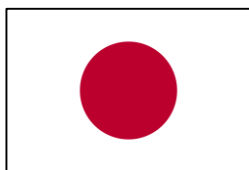
テクノロジーパーク

ホribaMIRA社の取り組み

– 次世代の規制対応・技術開発に貢献

英国を中心にグローバルなビジネス展開を加速

駐日英国大使館でのイベント開催



- 自動車関連メーカーや英国政府要人が出席
- 電気自動車・自動運転ビジネスの可能性を紹介

駐日英国大使館でのイベント
(右から2番目: ポール・マデン 駐日英国大使)



英国メイ首相の中国訪問に同行



- ホribaMIRA社CEOのジョージ・ギレスピーが同行
- 英国自動車産業の代表として選出

英国メイ首相訪中



ホリバMIRA社の取り組み

－ 次世代の規制対応・技術開発に貢献

英国を中心にグローバルなビジネス展開を加速



英国ウィリアム王子がホリバMIRA社を訪問

- 電気自動車や自動運転に関する技術を紹介
- ホリバMIRA社構内サーキットを試走！



堀場エステック阿蘇工場を増築

能力増強によりさらなる需要増に対応

半導体製造装置のコア部品となるマスフローコントローラーの
(MFC:ガス流量制御装置)生産能力拡大(延床面積1.5倍)

金額:約27億円
完成:2017年12月



堀場エステック阿蘇工場外観

新経営体制への移行(2018年1月1日)

氏名	新	旧
堀場 厚	代表取締役会長 兼グループCEO	代表取締役会長兼社長
齊藤 壽一	代表取締役副会長 兼グループCOO	代表取締役副社長
足立 正之	代表取締役社長	専務取締役

新経営体制の狙い

経営力強化、経営体制明確化、更なる技術力強化

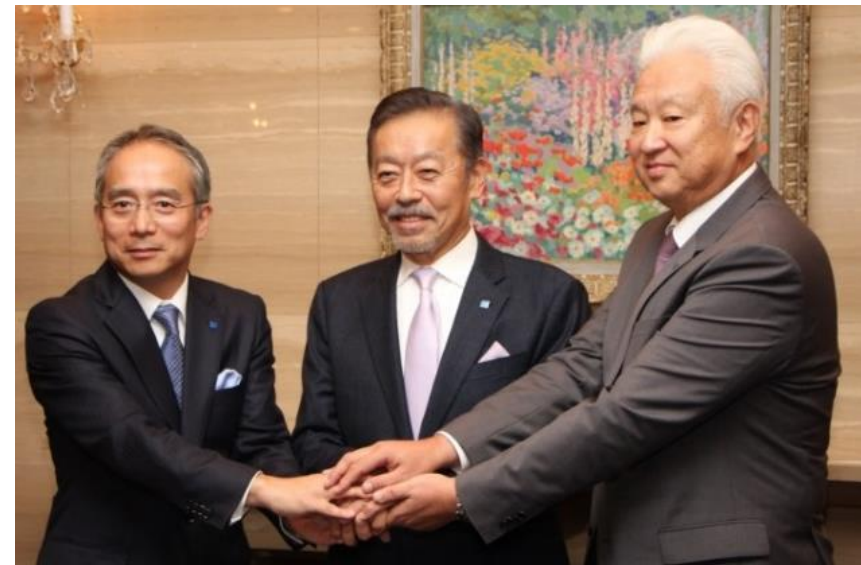
今後の役割

堀場 : グループ全体の統括

齊藤 : 具体的な戦略のリード

足立 : グループ本社としての機能強化

左から: 足立、堀場、齊藤



説明内容

- 会社概要
- ビジネス紹介
- HORIBAのあゆみ
- 中長期経営計画「MLMAP2020」
- トピックス
- **株主還元**

株主還元政策

基本的な株主還元方針

- 配当金＋自己株式取得 = 連結純利益×30% を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保(設備投資・M&Aなど)

配当金及び自己株式の取得

2016年実績 85円 [中間 30円、期末 55円]

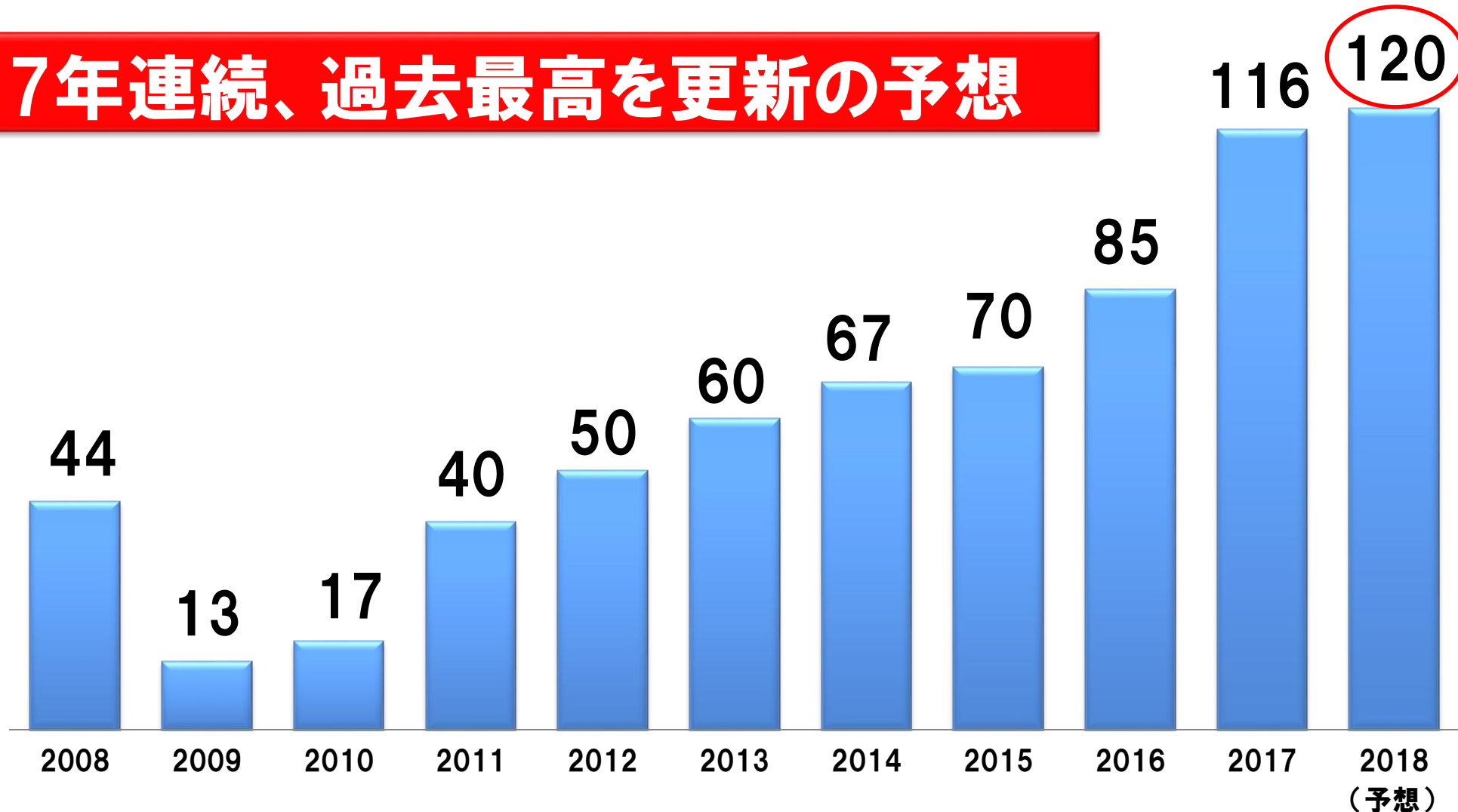
2017年実績 116円 [中間 40円、期末 76円]

2018年予想 120円 [中間 50円、期末 70円]

過去10年間の配当金推移

(単位:円)

7年連続、過去最高を更新の予想



ご清聴ありがとうございました！

☆最新情報はWebでも！

堀場製作所

検索



☆お問合せ先

経営管理部 IR広報・企画チーム

E-mail : ir-info@horiba.com

TEL : (075)325-5003

【ご参考】
HORIBAのあゆみ
セグメント別詳細(2017年通期決算説明資料より)

HORIBAのあゆみ

創業から2代目社長の時代

1945～1960:学生ベンチャーで創業、研究開発型企业としての基礎確立

1945: 堀場無線研究所 創業（1953: 株式会社堀場製作所 創立）

1950: 国産初のガラス電極式pHメーターを完成

1969: HORIBA史上に残る大ヒット製品「MEXA-200 CO計」登場

1970年代:強力な製品で世界進出

1970: 米国にオルソン・ラボラトリーズ社との合併会社
「オルソン・ホリバ」を設立。海外展開の本格スタート

1980年代:事業の拡大、次への布石

1980: スタンダードテクノロジがマスフローコントローラーを発売
半導体分野に進出

1987: フランスの血球計数装置専門メーカー「ABX社」と提携。

（青文字:技術史・黒文字:経営史）



創業者 堀場 雅夫

グローバル展開による成長

1990年代: 第二の創業とグローバル経営推進

1992: 堀場厚が代表取締役役に就任

1996: 血球計数装置メーカー「ABX社(現ホリバABX社)」を買収

1997: 「ジョバンイボン社(現ホリバ・フランス社)」を買収
「ブラックジャックプロジェクト(BJ)」スタート

2000年代: “One Company” グループ一体で世界に挑む

2007: 6カ国語掲載のブランド本「HORIBAブランドブック」を刊行
活動10周年を記念して、第一回「BJ Award World Cup」開催

2010年代: “One Company” の完成 次なる飛躍へ

2013: 米国キャメロン社より計測設備事業を買収

2015: 「MIRA社(現ホリバMIRA社)」を買収

2016: 滋賀県大津市にHORIBA BIWAKO E-HARBOR竣工



代表取締役会長兼
グループCEO
堀場 厚



HORIBA BIWAKO E-HARBOR

セグメント別詳細(2017年通期決算説明資料より)

2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

2017年実績

- + **排ガス** 全世界での規制対応により販売増加
- + **MCT**※1 自動車メーカーの投資回復による販売増加
- + **ECT**※2 MIRA日本チーム設立による費用増加
次世代規制・技術開発に向けた積極投資

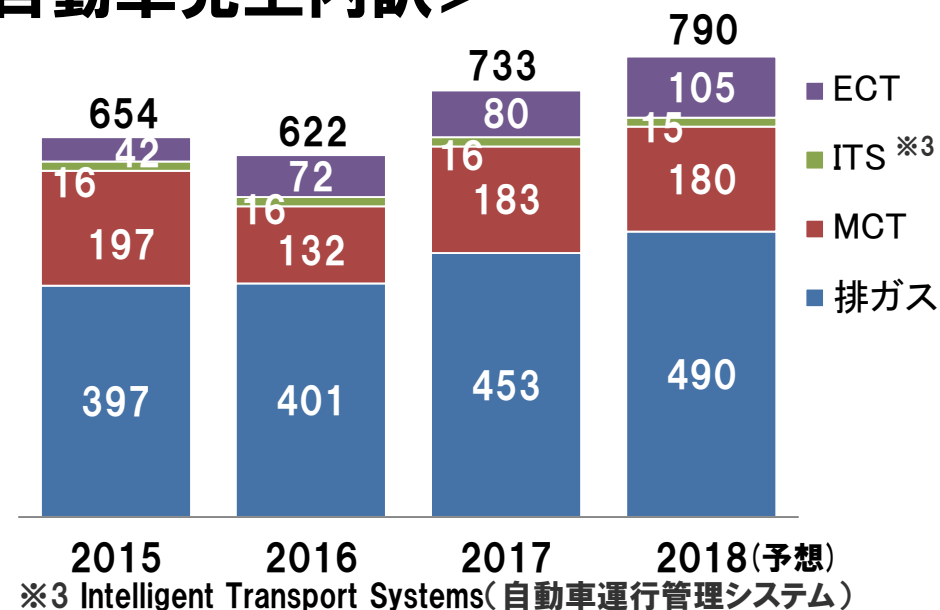
※1 Mechatronics
(自動車計測機器)

※2 Engineering Consultancy & Testing
(自動車開発全般に関するエンジニアリング・試験)

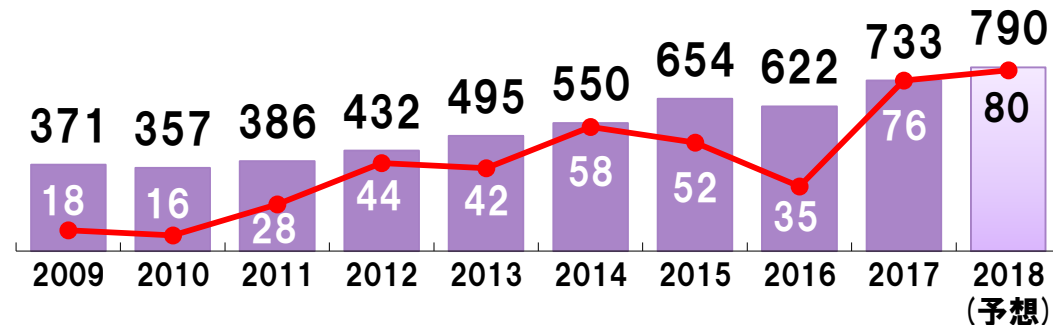
2018年予想

- + **排ガス** 欧州では新規制導入後も需要は堅調
中国・インドでは新規制導入に向けて需要増
- + **MCT** 2018年は横ばいも、2019～20年にかけて
自動車メーカーの新棟建設加速
- + **ECT** 積極投資により、次世代技術開発関連の
受注拡大

<自動車売上内訳>



売上高・営業利益推移(通期) ■ 売上高 ● 営業利益



次世代排ガス規制の状況・電動化への対応

(単位:億円)

次世代排ガス規制の導入状況

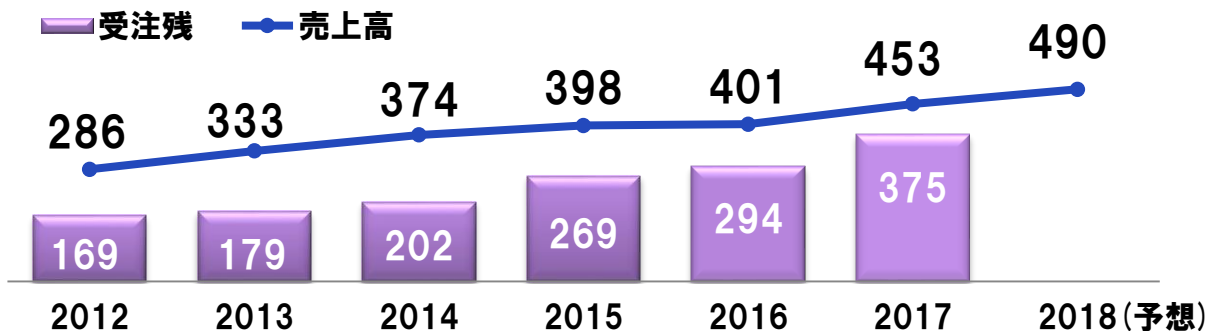
規制	EU	日本
WLTP※1	2017年9月	2018年10月(予定)
RDE規制※2		2022年(予定)

中国・インド:2020年新規制導入予定(ユーロ6同等)

※1 Worldwide harmonized Light vehicles Test Procedure
(国連提唱の世界統一排ガス試験法)

※2 Real Driving Emission(実路排ガス規制)

<排ガス売上高・受注残推移>



電動化への対応

試験設備の提供

単体(駆動系・モーターなど)から実車までカバー

電気モーター試験設備



電気自動車の試験



電池開発・分析

- バッテリーパックや管理システムの開発・試験(ホリバMIRA社)
- リチウムイオン電池や全固体電池の分析・評価(科学の技術を活用)

バッテリー開発



科学製品による
材料分析



技術リソースの相互活用でビジネス拡大

“はかる”装置 -実路走行測定でエンジン開発と規制に貢献-

ホット！

車載型排ガス測定装置 OBS-ONEシリーズ



- 排ガス規制の認証実験が行われる室内試験ラボ用測定装置と同等の高性能
- 外部環境に左右されず、路上走行時に高精度な排ガス測定が可能



ホリバMIRA社の取り組み

－ 次世代の規制対応・技術開発に貢献

最新の排ガス試験設備 開設

➤ 室内での実路走行を再現 ➤ 温度変化や高地シミュレーションに対応

外観



試験設備



2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

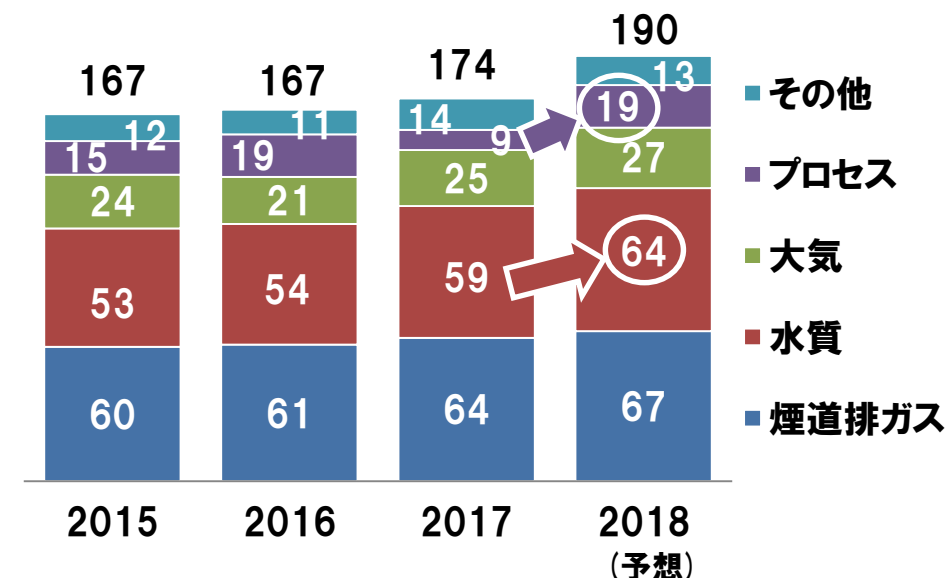
2017年実績

- + 煙道排ガス分析装置 { 国内:リプレイス需要堅調
中国:VOC規制で販売堅調
- 北米のプロセス計測設備ビジネスは、原油産業の投資減により販売低調

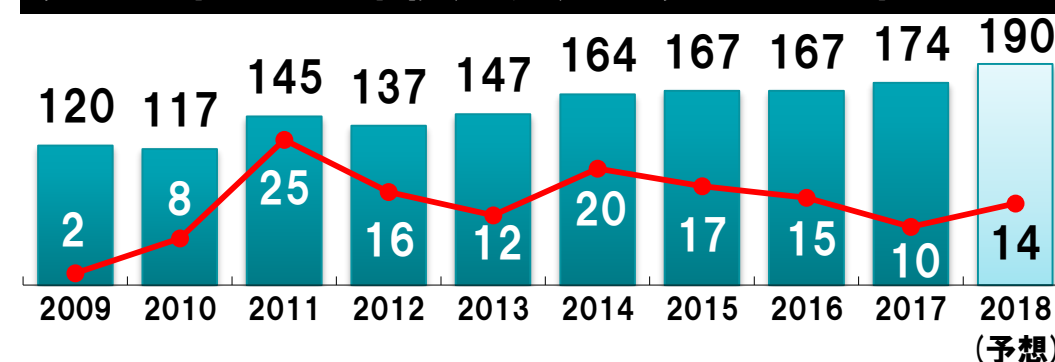
2018年予想

- + 煙道排ガス分析装置は、国内リプレイス需要を確実に取り込み。中国VOC規制進展にも期待
- + プロセス計測設備は、原油産業の投資回復により販売増
- + 水質計測装置は国内リプレイス需要の取り込み、新興国でのビジネス拡大により販売増

<ビジネス別売上高>



売上高・営業利益推移(通期)



新興国市場のビジネス拡大

ガス

新興国での需要に応える新製品発売
(直挿式レーザー塩化水素計「TX-100」)

特徴: 部品の定期交換不要・容易な校正
→ランニング/メンテナンスコスト削減
期待: 拡大するごみ焼却場・清掃工場に投入

ローカルエンジニアリングの強化(インド・中国)

煙道排ガス分析装置を現地仕様にカスタマイズ

TX-100(中国清掃工場へ導入)



インドでの現地カスタマイズ



水質

現地規制への対応による販売増

韓国 排水規制内容変更



→迅速な改造対応で現地認証取得

インド ➤ 現地工業規格の認証取得



➤ 販売代理店増加による販路拡大

各国工場の排水処理工程へ水質計測装置導入



【排水処理場】

韓国



インド



2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

2017年実績

- + - 日本での自動血球計数CRP測定装置の販促強化による費用の増加
- 南米での血液検査装置の販売減
- + - 新製品投入による販売促進費用、米国FDA承認取得費用の増加

最新検査システム



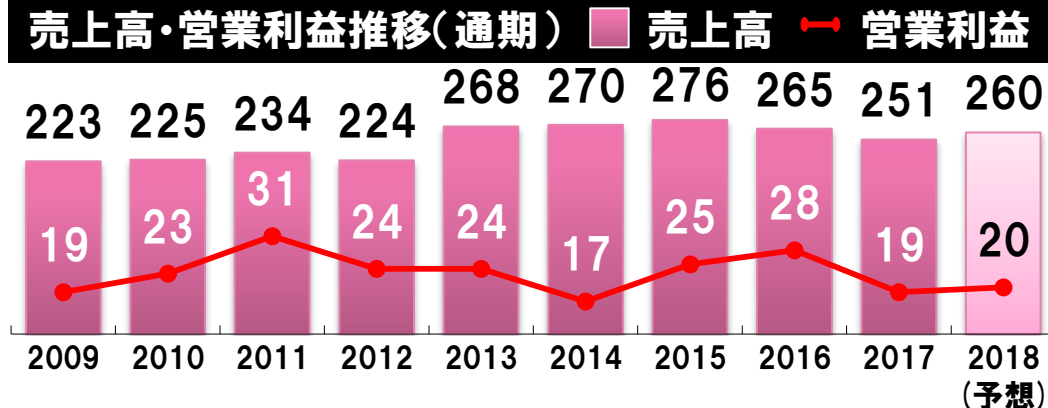
Solution
(2017年発売)



ブラジルでの顧客ラボ据付完成予定図

2018年予想

- 日本での自動血球計数CRP測定装置の競争激化
- + - 新製品投入による販売増、販売促進費用、米国FDA承認取得費用の増加



ビジネス拡大に向けた取り組み

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社
(シーメンス社)と長期的パートナー契約締結

契約月:2017年10月

内 容:検査装置、画像診断装置、治療システムなど
総合的ヘルスケアを提案するシーメンス社に
中大型血球計数装置を供給

HORIBA Yumizenブランドと両輪での拡販をめざす

<検査カテゴリー別の事業展開>

検査カテゴリー		生化学	血球計測	免疫	凝固
市場規模		2兆円	3,500億円	2兆円	2,000億円
病院	大病院 検査センター				
	中小病院				
開業医					
病棟・手術棟(POCT)					

Diagram illustrating business expansion by examination category:

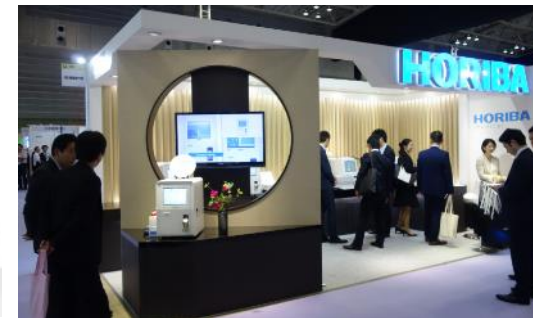
- 生化学 (Biochemistry):** Represented by a green box with arrows pointing up, down, left, and right.
- 中/小型血球計数 (Mid/Small Hematology):** Represented by a red dashed box with arrows pointing up, down, left, and right.
- CRP (C-reactive protein):** Represented by a blue box with arrows pointing left and right.
- 中/小型凝固装置 (Mid/Small Coagulation Device):** Represented by a blue box with arrows pointing left and right.

日本とフランスの技術が融合した
新製品 “Yumizen H630CRP”

- 白血球5分類(フランス)
+CRP測定(日本)
- 開業医、中小病院向け
- 電子カルテ対応ソフトウェア
「GATE LINK」と連携



新製品
Yumizen H630CRP



展示会
(2017年11月販売開始)

半導体

2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

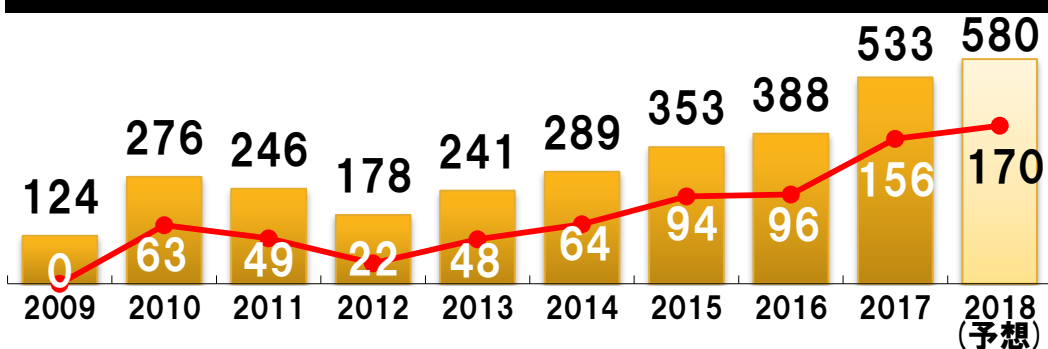
2017年実績

- + 売上高・営業利益ともに過去最高
- + マスフローコントローラー(MFC)の生産量は過去最高水準

2018年予想

- + 年前半の半導体メーカーの設備投資需要は堅調
- + 阿蘇工場拡張による供給能力拡大

売上高・営業利益推移(通期) ■ 売上高 ● 営業利益



半導体市況及びMFC関連市場トピックス

データセンターのストレージ量増加
AIやIoT関連のビッグデータ処理増加
自動車における半導体使用量増加

半導体・
製造装置の
需要増加

半導体製造技術の変化
(微細化、3D-NAND、多層化)

エッチング
装置の
需要拡大

マスフローコントローラー需要増加

ハイエンドエッチング装置に対しての強み

PI (Pressure Insensitive) 機能を搭載し、
急激な圧力変動に対して、安定した
流量制御を実現

差圧式MFC
CRITERION D500



安定供給体制の確立と販売・サービス能力の強化

阿蘇工場拡張工事完了

能力増強によりさらなる需要増に対応
高品質な製品をタイムリーに納入

金額: 約27億円

完成: 2017年12月

狙い: MFCの生産能力拡大(延床面積約1.5倍)



堀場エステック阿蘇工場外観

海外サービス・販売拠点の強化

韓国「堀場エステック・コリア社、新拠点開設」

- 2017年4月開設
- 生産能力強化、エンジニア増員

台湾「ホリバ・台湾社 新拠点開設」

- 2017年9月開設
- クリーンルームを1→2部屋に増設

中国「サービスオフィス新設(武漢、南京)」

顧客に密接したサービスを展開



堀場エステック・コリア社新拠点



ホリバ・台湾社 オープニングセレモニー

マスフローコントローラー 世界シェア 約60% 自社調べ(2017年12月現在)

2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

2017年実績

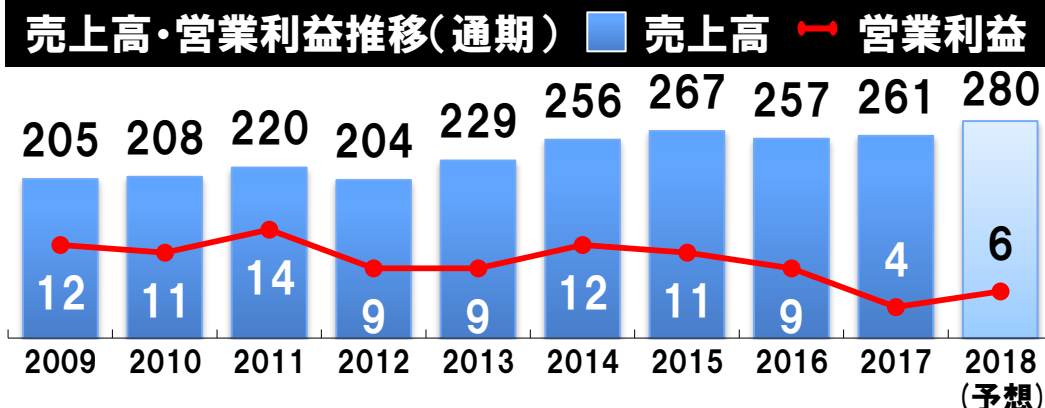
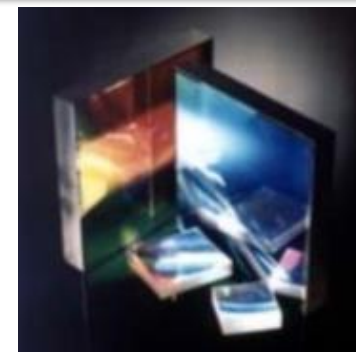
- 日、米、欧で大学向けなどの研究開発用分析装置の販売が低調 ⇔ + 中国向け好調
- + 新製品投入に向けて開発費用増加
- + 米国半導体市場向け分光器の販売が好調

2018年予想

- + 引き続き分光器の販売は堅調に推移
- + 日、米、欧にて大学向け製品の需要回復
- + お客様のニーズに合わせた製品カスタマイズによる新規市場開拓

グレーティング（回折格子）

- 分光分析装置の心臓部
- 世界トップレベルの技術
- 1997年にHORIBAグループ入りしたホリバ・フランス社（旧ホリバ・ジョバンイボン社）が開発、生産

ホリバ・フランス社
ヨーロッパ・リサーチセンター

新市場向け新製品と成長市場での取り組み

バイオ・ライフサイエンス市場向け 新製品「DUETTA」

- 蛍光吸光分光装置
- 抗体治療医薬の開発に使用
- 2014年に買収した旧Photon Technology International社(米)と旧米国ホリバ・ジョバンイボン社の技術を融合



高速検出器を用い
スピーディな測定を実現



操作性を追求した
新ソフトウェアを使用

ラマン分光分析装置 中国ビジネス拡大と最先端技術への応用

ラマン・蛍光分光技術シンポジウムを開催

材料分析・エネルギー・
化学関連などの技術者
80名参加

(2017年8月中国敦煌市で開催)



東レリサーチセンターがHORIBAラマンで 新分析手法を開発

- 従来の顕微ラマンに原子間力
顕微鏡)技術を融合
- ナノメートルレベルの分析が可能



パワー半導体の構造解析に有効



AFM (原子間力顕微鏡)
ラマン

Thank you

Omoshiro-okashiku
Joy and Fun

おもしろおかしく



감사합니다

Cảm ơn

ありがとうございました

Dziękuję धन्यवाद

Grazie

Merci

谢谢

நன்றி

ขอบคุณครับ

Obrigado

Σας ευχαριστούμε

Tack ska ni ha

شُكْرًا

Большое спасибо

Danke

Gracias